

派遣スタッフの安心を支える 健康管理で雇用創造を

株式会社パソナ健康管理室 室長 雨宮 央さん

株式会社パソナの雨宮央さんは、入社以来、派遣元として派遣スタッフの心身両面の健康管理に取り組んできた。人材派遣という分野ならではの課題と向き合いつつ、派遣先と綿密な連携を取りながら、試行錯誤の日々が続く。



株式会社パソナは「人を活かす」ことをサービスの原点に掲げ、幅広い業界の専門職種に対応した人材派遣ビジネスを展開している。大学で企業における衛生管理、健康管理を学び続けてきた雨宮央さんは、1992年にパソナに入社、現在は健康管理室長として多忙な毎日を送る。

「大学の同期が当社の産業医と同じ職場にいたことがご縁となって入社しました。企業の健康管理は私のテーマでしたから、産業医の濱本先生の後を追っかけながら夢中で歩いているうちに20年が経ってしまいました」と雨宮さん。産業医の濱本医師は創業者とも長いつきあひがあり、パソナは創業当時から派遣スタッフの健康管理に取り組んできた。

「最初のころは派遣ということに自分がこだわり過ぎていました。派遣という雇用形態が世間で注目を浴び始めたこともあり、派遣スタッフに特化した健康管理を描いていましたが、ある時、ふと気がつきました。健康で働き続けたい願いは社員、派遣スタッフの粹にくられるはずがないと。できることは何でもやっていこうと思うようになりました」

確かに派遣社員の健康管理の仕組みは他の業界よりも込み入っている。さらに個人情報という名のもとでは、健康に関するデータのやりとりも単純ではなく、派遣スタッフの健康管理は派遣元と派遣先の連携がなくては成り立たないのが現状である。

「派遣先の理解、派遣元との綿密な連絡・連携、さらに自己管理という3つが派遣スタッフの健康づくりのキーワードだと考えています。自己管理のためのセルフチェックの情報なども届けながら、自身のキャリアアップ・スキルアップにつながる自分の健康管理の大切さをもっと強くアナウンスしていきたい。健康診断は、年2～4回の受診機会を設け受診を促しており、該当月に受けていないスタッフにつ

いてはリストをつくり、連絡を密にしている営業担当が声をかけています。ここ数年、受診率は少しずつ上がってきてはおり、100%受診を目指しています」

そのために健康診断はパソナの提携健診機関だけでなく、人材派遣健康保険組合（はけんけんぽ）の契約健診機関でも受診できる体制にしている。はけんけんぽでは、派遣元企業の協力を得て保健事業検討委員会をつくり、そこで現場の声を吸い上げながら健康管理のメニューを提供しており、雨宮さんのいう連携がここでもキーワードとなっている。

また、安心して働ける環境としてメンタルヘルス対策も欠かせない。電話による相談が主となっているが、雨宮さんが健康管理室に着任した時期と前後してフリーダイヤルが設置された。健康管理室は東京と大阪にしか置かれていないため、全国から相談が寄せられる。さらには外部資源としてEAPとの連携で24時間電話相談ができる環境が整っている。

「相談チャネルはこのほかにも用意しています。営業担当だけではなく、『メンター』というベテランの相談員もいますし、はけんけんぽにも電話相談や面談の窓口があります」

相談のチャネルを広げていれば、不安要素を早い時期に解消することが可能になる。遠方から電話してくる派遣スタッフと長時間にわたって話すたび、心に寄り添いながら未然に予防することを肝に銘じている。

最後に「派遣スタッフもちろん大事だが、スタッフをサポートする当社の社員の健康管理もさらに充実させていかなくては」と雨宮さんは笑う。

人材派遣における健康管理の難しさから、衛生管理者としては何もできないまま年数を重ねただけだと、何度も口にする雨宮さんだが、パソナの健康管理の取組は着実に進んでいる。